

明るいあしたのために

今日から私、変わります!



「人権・同和問題啓発戸別訪問から見えてきたこと」

那珂川町では、平成12年に重大な差別事象が発生し、社会意識としての差別意識が根強くなっていることが明らかになりました。そのため、真に差別のない人権尊重のまちづくりを目指して、平成13年度から10年計画で、行政職員が町内全世帯を一戸一戸訪問、「人権・同和問題啓発戸別訪問」を実施しました。

そのときの町民の方の意見として、①「同和問題は昔の話、今では差別は無いし、聞いたこともない。今さら啓発したり、教えたりする必要はない。同和問題を広げるだけだ。」②「何も知らない子ども

にも同和問題を教えるから、差別の存在を知ることになる。」③「差別したこともないし、されたこともない。差別の話もしないし、啓発冊子も読んだことがない。」④「そういう話題(同和問題について)は、口を閉ざした方が無難である。」などがあり、「無関心」「無関係」「傍観」的な考えの人が多いうことが分かりました。
今回の啓発冊子では、この「無関心」的な4つの考えを持つ方に焦点を当てて、みなさんと考えていきたいと思ひます。

あなたは どう 思いますか？



まだ部落差別はあるの？
もうないのではないですか？

部落差別は、そっとしておけば
自然になくなるのではないですか？



自分は差別をしていないし、
自分には関係ありません



同和問題には関わらない
ほうがいと聞いたのですが？



あてはまるものをチェックしてみましょう

- 那珂川町で啓発戸別訪問がどうして実施されてきたかを知っている。
- インターネット上で差別書き込みなどがあっていることを知っている。
- 結婚にあたって生まれや血筋などで差別を受けている人がいることを知っている。
- 身元調査は人権侵害である。
- 部落差別は昔の問題ではない。

→ チェックが少ない人は「もう差別はなくなった」と思っていますか？

- 家庭で人権問題を話題にしている。
- 学校では、もっと人権・同和教育の指導を推進すべきである。
- 企業研修にもっと人権学習を取り入れるべきである。
- 部落差別に対する正しい知識や科学的認識を身に付けることは大切である。
- 人権・同和教育は、みんなの生活や文化を豊かにする。

→ チェックが少ない人は「そっとしておけば差別はなくなる」と思っていますか？

- 同和問題啓発冊子を読んだことがある。
- 「いじめ問題」は、いじめる人だけでなく周りで見ている人にも責任がある。
- 「女だから」、「男だから」の考え方は改めるべきである。
- 同和問題はみんなの問題である。
- 部落差別について、無関心も差別である。

→ チェックが少ない人は「自分には関係ない」と思っていますか？

- 同和問題について学びたいと思っている。
- 根拠のない風習や慣習には従うべきではない。
- 住んでいる地域で人を判断したりしない。
- 同和問題講演会や人権フェスタにはよく参加している。
- 差別をなくす啓発活動は、みんなが進めるべきである。

→ チェックが少ない人は「同和問題には関わらない方がいい」と思っていますか？

次のページで、最初の問いについて考えてみましょう！

Q.1

まだ部落差別はあるの？もうないのではないですか？

A. いろんな場面でまだまだ差別は根強く存在しています。

差別に無関心でいると、それが差別だと気付かず見過ごすことがあります。しかし、インターネット上では特定の人や地域を誹謗・中傷した内容の差別書き込みなどが発生しています。また、結婚や就職に際しての差別も依然として根強く存在しています。

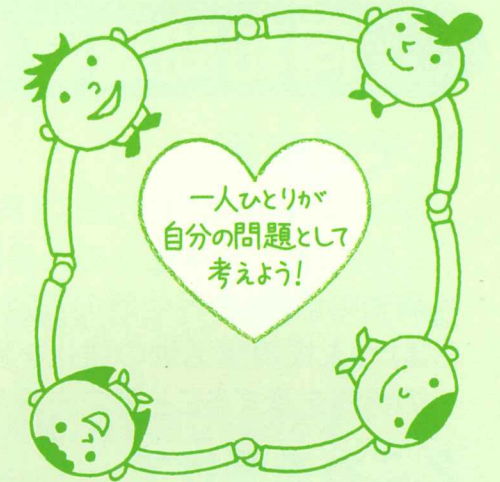


Q.3

自分は差別をしていないし、自分には関係ありません

A. 差別は特定の人の問題ではなく、すべての人の問題です。

同和問題をはじめとする人権問題は、差別される側の問題ではなく差別する側の問題です。そして自分には関係ないといった傍観的な考えも、結果的に差別の存在を許してしまうことになり、差別する側になってしまいます。同和問題は、特定の人の問題ではなく、すべての人の問題であり、自分の問題であると言えます。



Q.2

部落差別は、そっとしておけば自然になくなるのではないですか？

A. 差別が残っているからこそ教育や啓発を行っているのです。

そっとしておけば差別はなくなるという考え方は「寝た子を起こすな」とも言いますが、今なお差別意識がひそかに伝わり残っているからこそ教育や啓発を行っています。教育や啓発をするから差別意識が残っているのではありません。「そっとしておけば差別はなくなる」という考え方は、差別を温存し、次の世代に残してしまうことになり、同和問題の解決にはなりません。問題の解決のためには正しく理解し、行動していくことが大切です。



Q.4

「同和問題には関わらないほうが良い」と聞いたのですが？

A. 予断や偏見こそ差別を温存する原因のひとつです。

うわさや人から聞いた話で、悪いイメージをもったり、十分な根拠もなく予断や偏見をもてしまったりすることがあります。現実を知らないで「同和問題に関わらないほうがよい」といううわさや憶測をそのまま信じていませんか？予断や偏見こそ差別を温存する原因のひとつです。



研修会や行事などに参加して人権問題解決に向けて正しく理解し、行動に移しましょう。

毎年7月は同和問題啓発強調月間です

正しく知る、正しく伝える、みんなで考えよう

同和問題啓発強調月間の取り組み

1. その由来

国は、昭和44年7月10日に「同和对策事業特別措置法」を制定しました。

- この法律は、日本固有の人権問題である同和問題の解決を図るため、同和地区の経済力の培養、住民生活の安定、福祉の向上に寄与することを目的としています。
- また、人権擁護活動の強化を図るため、人権思想の普及高揚、人権相談活動の推進等の措置を講ずること等の施策が示されました。

2. これを受けて

福岡県、各市町村では、昭和56年度から毎年7月を「同和問題啓発強調月間」と定めて、部落差別をなくす取り組みを行っています。

3. その取り組み

■福岡県では

- ①7月1日に街頭啓発 ②同和問題講演会 ③新聞広報 などを実施します。

■那珂川町では

- ①7月1日～街頭啓発 ②同和問題講演会 ③啓発冊子特集号「明るいあしたのために」を配布 ④広報なかがわ、広報車、立て看板、懸垂幕、ポスター等による啓発 ⑤各種団体研修会 などを実施します。

4. 目指すまちづくり

人権を尊重し、学び、輝くまちづくり

- ・誰もが生きがいを実感できるまち
- ・子どもが健やかに育つまち

正しく知る・正しく伝える・みんなで考える

人権意識を高揚する

人権意識を育む

- 学校や地域における人権・同和教育と啓発の推進
- 男女共同参画のまちづくりの推進
- 「生きる力」を育む教育の充実
- すべての住民に開かれた生涯学習の場の充実
- 人や郷土を大切にすることの涵養

人権についての取り組み・イベント

5月 恵子児童館子どもまつり

人権を大切に子どもを育てるために、子どもの健全育成を支援する団体等で実行委員会を組織し、開催しています。

とき 毎年5月第4土曜日 ところ 恵子児童館、町民体育館、福岡県立福岡学園

7月 同和問題啓発強調月間 同和問題講演会

福岡県・各市町村では、毎年7月を「同和問題啓発強調月間」と定めて、部落差別をなくす運動を展開しています。講演会はこの強調月間の一環として、全町民を対象に開催しています。

とき 毎年7月の土曜日 ところ ミリカローデン那珂川

7月～ 各区公民館人権問題研修会

人権が大切にされる地域づくりを目指し、各区公民館において人権問題研修会を開催しています。



12月 人権週間・人権フェスタなかがわ

世界人権宣言にちなみ、法務省と全国人権擁護委員連合会は、4日～10日を人権週間と定め、人権尊重のための啓発活動を全国的に展開しています。那珂川町では「人権フェスタなかがわ」を開催します。

とき 毎年12月の人権週間中の日曜日 ところ ミリカローデン那珂川

人権に関する相談窓口

福岡法務局 筑紫支局 092(922)2881
 那珂川町住民生活部人権政策課 092(953)2211
 [内線182・183]



発行：那珂川町
編集：那珂川町同和問題等啓発資料編集委員会
印刷：九州チューエツ株式会社